二三男くんの未来日記

千代田区

# 人とのつながりを持てる街にしたい

## 新住民が地域に関わる仕組みづくり

「確かこの通りには都電が走っていたと思うのですが」

九段下にたどり着いた二三男くんは通りがかりの男性に声を掛けていました。男性は苦笑しながら「そんなの、とっくの昔に廃止されましたよ」と教えてくれました。

70年後の現代の都心は、地下鉄が主役。二三男くんは高層ビルが立ち並ぶ街を歩きながら、「すごい時代になっちゃったなあ」と途方に暮れました。

九段下には、千代田区役所が入った合同庁舎があります。二三男くんは最初にそこに向かい、千代田図書館で『千代田区まち・ひと・しごと創生総合戦略』を手に取りました。

まずは資料編の「人口ビジョン」に注目しました。

### 都心回帰で人口は増加傾向に

千代田区の総人口は、都心の人口空洞化が叫ばれていた昭和から平成初期の間、減少傾向が続いていましたが、都心への人口回帰に伴い1995（平成7）年を境に人口増に転じています。

年齢3区分別の人口の推移を見てみると、生産年齢人口（15～64歳）は1995（平成7）年まで減少していましたが、そこから増加に転じています。年少人口（0～14歳）も2000（平成12）年から増加に転じました。一方、老年人口（65歳以上）は概ね一貫して増加傾向にあります。

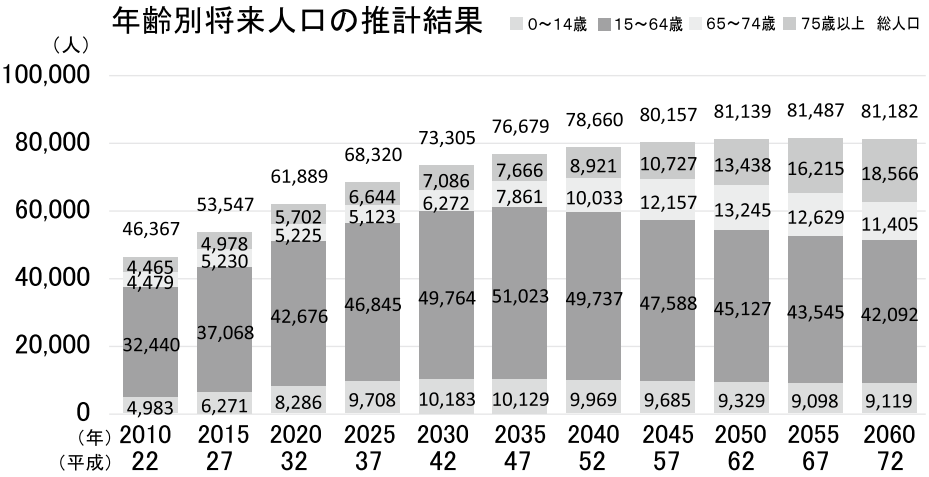
出生数は、近年の中期的な傾向としては増加傾向にあり、2013（平成25）年の出生数は466人で、10年前の約2倍に増加しました。

転入者数は、減少している年はあるものの中期的には増加傾向にあります。社会増減数は、2000（平成12）年以降、一貫して社会増となっており、特に2011（平成23）年以降、急速に増加しました。

千代田区の人口総数増減と自然増減、社会増減の動向を比較すると、自然増減が人口総数増減に与える影響は軽微であり、人口総数の増減に大きく影響しているのは、この社会増減です。

### 将来人口推計

将来人口推計の基本シナリオでは2055年にピークを迎え、その後、



減少に転じます。0～14歳の年少人口について見ると、2030年代初頭まで増加し、その後緩やかな減少に転じ、2060年には年少人口比率が11・2％になると見込まれています。15～64歳の生産年齢人口について見ると、2035年をピークにその後減少に転じます。

65歳以上の老年人口については、平成30年代頃まで緩やかに上昇するものの、その後増加傾向が強まります。また、区民の約9割は定住意向を持っており、近年の転出入の状況を見ると、ほぼすべての年齢層が差引で転入超過となっています。その一方で、2014（平成26）年においては、約5千人が区外へ転出している実態があります。また、老年人口比率は、2040年頃から増加の傾向が強まり、2010（平成22）年に19・3％であったものが、2060年には36・9％に達すると見込まれています。

二三男くんは「日本の真ん真ん中の大都市でも、少子高齢化とは無縁ではないんだな」と思いました。

## 千代田区を含めた地方全体の活力を高める

次に二三男くんは本編の「総合戦略」へと読み進めていきました。

千代田区は、人口増加を見据えた行政サービスの充実が今後5年間の課題であり、人口減少等を背景とする様々な課題解決のために地方創生を進める国とは異なる点もあると考えています。一方で、国のめざすべき将来の方向性として掲げられた「将来にわたって活力ある日本社会を維持する」ことは重要な視点であり、千代田区も「地方」の一つとして、地方全体が活力を高めることができるよう、積極的に取り組んでいくこととしています。

その上で、千代田区の実情や特徴を踏まえた3つの基本目標を掲げ、施策を提示しています。

基本目標1は「若い世代の出産・子育ての希望をかなえるとともに、安心して働けるようにする」です。子育て世帯の流入が多く、子育て支援に対するニーズが高いことや、就労形態が多様化する中、仕事と家庭の両立が難しいという声が多いという背景を踏まえたものです。

基本目標2は「豊かな地域コミュニティが息づくまちづくりを進める」です。区民の8割以上がマンション等集合住宅に居住しており、子育て世帯や高齢者世帯、単独世帯が増加している中、マンション内コミュニティや地域とのつながりが希薄になっている状況から掲げたものです。

基本目標3は「地方との連携を推進し、区の魅力と活力を高め発信する」です。千代田区は、エネルギーや食料など、経済活動、生活全般にわたって地方に支えられて成り立っており、地方との共存・共栄が求められています。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催を契機として、国内外に開かれた魅力と活力のあるまちをめざしています。

「神田住みこなしガイドブック」イメージ

## 新しい区民が溶け込める地域コミュニティとは

千代田区の人口は6万人を超えましたが、マンションなどの共同住宅に住む人の割合は89・2％に及びま

す。区内には麹町、神田の各町会を始めとする伝統あるコミュニティが多数あり、これまで地域社会を支えてきました。しかし、新しい住民が急速に増える中で、地域における人のつながり方、関わり方も変化し、これまでのコミュニティの姿をそのまま維持していくのが難しくなってきました。

また、最近のマンションはプライバシーを守るためセキュリティーが厳しく、同じマンション内でも気軽に声をかけあうような環境がつくりにくいのが現状です。災害発生時など隣近所との支え合いが必要となりますが、地域コミュニティが希薄ではいざという時に困ります。

二三男くんは「昔から千代田区に住んでいる人と、新しく転入してきた住民が気軽に声をかけあう関係をつくるには、どうしたらいいんだろう」と疑問に思い、区役所の窓口を訪れました。

マンション住民を対象にこれからの地域コミュニティについて考えました

マンション
コミュニティゼミの様子

## ちよだコミュニティラボでは

つながりやコミュニティは、誰かに指示されてできるものではありません。長らく地域を支えてきた人の思いや守ってきたことを踏まえつつ、新しい区民の思いやライフスタイルなどにも対応できる地域の姿、コミュニティの姿とは何か？

千代田区はこうした問いを解決しようと、「地域コミュニティ醸成支援事業」を始めました。この事業に愛称をつけ「ちよだコミュニティラボ」として、四つのプログラムに取り組んでいます。

一つ目は、地域課題解決支援です。連合町会・町会が地域の課題と考えていることを検討する際に、会議運営、課題の整理、新しい解決策の考察などの手伝いをし、5年後、10年後の地域コミュニティ醸成に向けて必要な取り組みの推進をお手伝いします。

２０１７（平成29）年度は、神田公園地区連合町会がモデル地区に手を挙げました。町会と新しい住民のつながりを広げるにはどうしたらいいのか？同連合町会では、役員が月1回のペースでコミュニティを考えるミーティングを行いました。

新住民へのインタビューや議論を通じて、新しい住民を中心にこの町に住む全ての人に向けて「神田住みこなしガイドブック」を制作しました。

二三男くんは「新しく転入した区民にいきなり町会に加入してと働きかけても、うまくいかないよね。自分が住む地域の生活と町会とがどう関わっているのか分かると、地域とのつながりもうまくいくかもしれない」と感じました。

「ちよだコミュニティ
ラボライブ！」

イベントでは多様な主体が出会い、交流しました

## 多様な主体が出会う場

二つ目は、マンション・コミュニティ・ゼミです。区内在住のマンション住民を対象に、まずマンション内のつながりについて考え、そこから地域コミュニティのこれからについて考えています。ゼミでマンション住民の地域コミュニティへの理解を進めることで、そこから町会や地域の多様な主体とつながっていくことを目指しています。

２０１８（平成30）年度は「シェアリング@千代田」をテーマに、身近な人と経験や時間を分かち合ったり、共有スペースを効果的に活かすような取り組みを進めたい人を応援するプログラムを実施しています。

三つ目は、「ちよだコミュニティラボライブ！」（交流イベント）です。町会、マンション、各種団体・協議会、ＮＰＯ・ボランティア、企業、大学などの区内のコミュニティを担う多様な主体が出会い、それぞれの考えや経験を学び合うイベントを通して、今後の千代田区の共生コミュニティ構築への基盤づくりを進めています。

今年の３月10日には、「ちよだコミュニティ ラボライブ！～千代田での活動の可能性を、共に探る１００人会議～」を開催しました。

四つ目は、情報発信です。事業の活動紹介、レポートに加え、千代田区のコミュニティづくりのヒントとなる情報を、ウェブサイトとＳＮＳで発信しています。

## 小さなシェアを積み重ねる

自分の価値観やライフスタイルを持ち、プライバシーを大切にしている人たちに、「マンション内でつながろう」「町会に入ろう」と言ってもすぐには難しい。イベントなどに顔を出して、まずは顔見知りになり、町の課題や地域の資源など、小さなシェアを積み重ねることが大切です。

シェアする人が増えれば、５年後、10年後の未来に千代田区のコミュニティを支える人材になっていくのではないでしょうか。

区の担当者は「ゆるいつながりで人と人とがつながっていくのがこれからの地域コミュニティの在り方です。千代田区は定住意向は９割もありますが、残念ながら子育てなどのライフサイクル途中で転出してしまう人も少なくありません。誰もがずっと住み続けたい街をつくるためには、人とのつながりを持てる街にしなければならない。だからこそ、地域コミュニティの醸成を重視しているのです」と話してくれました。

二三男くんは「千代田区のマンションにたくさん新しい住民が転入してきて、様々な価値観の人が集まってきている。子供の見守りや保育、災害対策など、地域の課題を共有し、いざという時に解決できる関係がつくれたら、新しい住民もこれからずっと住み続けたいと思える街にしていけるのではないか」と思いました。

一通り勉強を終えた二三男くんは、もう少し勉強しようと、神田の古書店街へと小走りに向かいました。

取材協力／千代田区